

学校教育目標	やさしく かしく たくましく ～夢の実現へ成長する子どもの育成～
育成を目指す 資質・能力	1～9年生の学びをつないでいくことにより、学習指導要領の3観点に身に付いた児童生徒の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>○各種学力調査の分析から明らかになった課題</p> <p>【6年生】(全国平均正答率との比較) 国語→全ての領域において全国平均を上回る。 算数→全ての領域において全国平均を上回る。</p> <p>【9年生】(全国平均正答率との比較) 国語→全ての領域において全国平均を上回る。 数学→全国平均を上回る。 「図形」の分野にやや課題がある。 「数学的な技能」については、大幅に平均を上回る。</p>	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>○1学期末学校評価の分析結果から明らかになった課題 「自分の思いや考えを発表(発言や文章で)すること」に課題がある。</p> <p><分析> ・「自分の思いや考えを発表(発言や文章で)できる」と7割以上の児童生徒が答えている。より自分自身を表現できるようにするためには以下の課題がある。 ①「挙手による発表」だけでなく、様々な方法で自分の考えを表現させ、伝え合うことができるという経験が少ない。 ②自分の考えを表現できるように多様な場の設定(ペアトーク・グループトーク)や工夫をする必要がある。 ③表現するだけでなく、自分の考えが友だちの役に立っているという実感が少ない。</p>

これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)

- ・学校評価の結果では、「授業が楽しい」よりも「授業が分かる」と答えた生徒のほうが割合が高い。楽しい授業づくりに力を入れることで、さらに「授業が分かる」ようになると考えられる。
- ・グループ活動では、発言が一部の児童生徒に偏る傾向がある。他人任せや分かっていると言えない、発言したいがなかなかできない児童生徒も表現できるような場や雰囲気づくりを行う。

指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けた研修部と「かしこプロジェクト」からの取組の提案、検証、改善
	<p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から英語科の学習に取り組む ・3年生算数で習熟度別授業 ・5、6年生の教科担任制推進 ・5～9年生で単元末に授業アンケートを実施。児童生徒がどのように感じているかを把握し、児童生徒とともにつくる授業づくりを目指す ・生徒指導の3機能を意識した授業に取り組む ・9年間で一貫した指導を目指して、1～9年の教員がともに研修をすることで、課題を共有し授業に反映させる

学力に関する達成指標

<ul style="list-style-type: none"> ○「自分の思いや考えを発表(発言や文章で)できる」と答えた児童生徒80%以上 ○1～6年 単元末テストで6割以下の児童生徒を3%以下 ○7～9年 単元末テストで3割以下の児童生徒を8%以下
--

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>〈授業改善テーマ〉 ○9年間を見通した「学びに向かう」児童生徒の育成 ～楽しく学び「できた」「分かった」を実感できる授業づくり～</p> <p>〈授業改善の重点〉 ○学ぶ意義や価値、探究心のわく課題や活動の場面を設定する。 ○一人一人の自己表現の場が保障される対話的な授業を実施する。 ○「振り返り」や学習評価の活用を行う。</p>	<p>〈家庭・地域の取組内容〉 メディアコントロールの取組の推進</p>
	<p>〈取組内容〉</p> <p>○「見通し」と「振り返り」のある問題解決的な授業の実施で、自分の思いや意見を表現できる場を設定する。 ○自分の思いを表現するためには、それを聴く側の力も大切であるので、「話す・聴く」指導に力を入れる。</p>	<p>〈家庭・地域の取組指標〉 家庭でメディア(テレビ、パソコン、ゲーム、携帯電話など)の使用についてきまりを作り、使用状況を確認している。</p>
	<p>〈取組指標〉</p> <p>○前期・中期・後期ごとの「課題設定・自己表現・振り返り」の視点に分けた具体的な取組をする。</p>	<p>〈家庭・地域の検証指標〉 学校評価「家庭でメディア(テレビ、パソコン、ゲーム、携帯電話など)の使用についてきまりを作り使用状況を確認している。」80%以上</p>
	<p>〈検証指標〉</p> <p>○児童生徒に学期末に実施する学校評価で「授業が楽しい」と回答する児童生徒が88%以上、「授業が分かる」と回答する児童生徒が91%以上、「自分の思いや考えを発表(発言や文章で)できる」と回答する児童生徒が81%以上</p>	
<p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <p>○管理職の授業観察や互見授業による授業改善 ○小学校高学年での教科担任制の推進 ○5～9年生で実施する授業アンケートの集計結果交流 ○生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開 ○校内研究と連携した「9年間を見通した『学びに向かう』児童生徒の育成」の研究、提案授業・互見授業の実施</p>		